

Newsletter

Vol.18 2012.7.23

日本養護教諭養成大学協議会

日本養護教諭養成大学協議会
ニューズレターVol.18
発行 日本養護教諭養成大学協議会
編集責任者 岡田加奈子(千葉大学)

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ 目 次 ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

協議会新会長挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1	総会のお知らせ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
新役員紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2	事務局からのお知らせ・・・・・・・・・・・・・・・・	6
各種委員会活動計画・・・・・・・・・・・・・・・・	2	ホームページ更新について・・・・・・・・・・	6
中央教育審議会の動向・・・・・・・・・・	3	会計よりお願い・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6
養成大学の展望－北から南－・・・・・・・・	3	編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6
協議会活動報告・・・・・・・・・・・・・・・・	5		



新会長挨拶 ～未来を見据えた 協議会へ～

会長
岡田 加奈子(千葉大学)

日本養護教諭養成大学協議会は、養護教諭養成に関わる大学、短期大学（部）および大学院が相互に提携と協力によって学術と研究の発展に寄与し、養護教諭養成を担う高等教育機関の使命達成に貢献することを目的として、2005年11月26日、66大学・短期大学（部）の加盟のもと発足いたしました。その後、加盟校は増え、現在110大学・短期大学（部）となりました。準備立ち上げにご尽力いただいた第1期大谷尚子会長の時代から、続く第2・3期高橋香代会長では、文部科学省をはじめ、社会にその存在が徐々に知られる団体となってまいりました。本4期は、今までの方向性を踏まえつつ、さらに質的な発展を遂げる時期として、以下の方向性を考えております。

【1. 社会的発言力の増大

：社会に認められ、社会を変えうる協議会へ】

中央教育審議会「教員の資質能力向上特別部会」

から、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」（最終まとめ案）が6月25日に出され、我が国の教員養成制度が大きく変わる可能性も出てきました。本協議会は、意見照会団体となり、養護教諭に関する検討も強くお願いしてまいりました。今後ますます、社会に認められ、社会を変えうる協議会へ発展させていきたいと考えております。

【2. 社会改革に資する智の構築】

教員免許制度等の具現化を行うためには、具体的な内容にまで踏み込んだ提案を、その根拠とともに示していく必要があります。協議会では、昨年度カリキュラム検討委員会、さらに理事会で検討した「教育職員免許法改正案」を提案しております（2011年度事業報告書）。教員免許制度等が大きく変わろうとしている現在、今後ますます、具体的な提案を行うための検討・活動が必須となってまいりました。そのために、委員会活動の研究・検討を中心に、取り組んでいきたいと考えております。

【3. 会員校への貢献】

会員校におかれましては、養護教諭養成教育のみならず、免許更新講習等をはじめとした現職研修に日々ご努力されていることと存じます。しかし、中には、養護教諭養成の担当者が少ない、歴史が浅い

など、カリキュラムや教育方法・内容について、試行錯誤されている会員校もあると思います。そこで今期は養護教諭教育に関するワークショップの開催などを考えております。また他には、日本学校保健会発行の最新の冊子を総会時にお渡しすることになりました。

【4. 会員間の交流・コミュニケーションの拡大】

会員間の交流といっても、実際に会員が会い、意見交流することは、9月の総会時が唯一の機会であったと思います。そこで、今後、各大学で抱えている様々な問題を、多くの大学で共有し、学びあう機会を、さらに増やしたいと考えております。

【5. 速やかな情報提供】

事務局櫻田淳氏のご尽力により、会員校のメーリングリストが整備されました。これにより、会員校に速やかに情報提供を行うことが可能となりました。今後、文部科学省等からの新しい情報など、会員校に対し、情報を提供することを考えております。会員校の先生方におかれましても、会員校で共有したほうが良い新たな情報を入手されましたら、すみやかに、協議会事務局へご連絡いただきたいと思います。

より良い養成に向けて邁進する所存でございますので、ご支援、ご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。ご意見がございましたら、協議会事務局 yogogimu@spu.ac.jp まで、よろしくお願い申し上げます。



日本養護教諭養成大学協議会 役員

(2012年4月～2015年3月)

会長	岡田 加奈子	千葉大学
副会長	荒木田 美香子	国際医療福祉大学
副会長	大原 榮子	名古屋学芸大学短期大学部
事務局	櫻田 淳	埼玉県立大学
役員	池添 志乃	高知県立大学
	後藤 ひとみ	愛知教育大学
	斉藤 ふくみ	茨城大学
	鈴木 裕子	国士舘大学
	津島 ひろ江	川崎医療福祉大学
	三木 とみ子	女子栄養大学

各種委員会活動計画

「養成制度検討委員会」 活動計画 委員長 後藤 ひとみ (愛知教育大学)

昨年度は主に会員対象調査の内容を検討しました。養成制度に関しては、①現行の教員免許制度(開放制、課程認定、保健師免許と2種免許状取得)、②新たな教員免許制度(修士レベル化、基礎・一般・専門免許状(仮称))、③これからの養成のあり方(短大・特別科、大学院)について尋ね、以前からの課題と新たな課題に対する意見をまとめました(詳細は9月発行の2011年度事業活動報告書に掲載しました)。さらに、文部科学省の教育改革調整官である日向氏を講師として研修会を開催しました。本年5月15日に出された中教審「教員の資質能力向上特別部会」(審議のまとめ)では、教員養成の今後の課題が挙げられています。本委員会は、その内容を詳細に分析し、修士レベル化や教職大学院を視野に入れた新たな養成制度の課題について検討していきたいと思っております。皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

「カリキュラム検討委員会」 活動計画 委員長 大原 榮子 (名古屋学芸大学短期大学部)

2012年度より新たに、三木、櫻田、大原の3人の理事がカリキュラム検討委員会の担当委員となりました。本委員会は、これまで養護教諭養成の資質向上に大きく影響する教育職員免許法の課題を養護教諭養成カリキュラムという視点から検討してきました。また、昨年度の総会では新たな時代における養成を見据えた免許法等の提案を行いました。そして、5月に中央教育審議会の「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」(審議のまとめ)に対して本協議会からも会員校各位からの意見集約をして提出しました。

今年度の委員会活動は、社会の流れに見合った具体的な養護教諭養成カリキュラムの提案を行うための検

討を行っていきたいと思います。

今後の養成に向けて10名程度の委員を募集します。

「FD 検討委員会」 活動計画
委員長 荒木田 美香子 (国際医療福祉大学)

2012~2014年度は荒木田、津島、池添の3役員が担当させていただきます。

今期は「養護教諭養成における倫理教育」をテーマに活動する予定です。テーマ設定の理由は①国際化及び社会の変化に対応して、子どもたちの持つ社会的背景、家庭背景、心身の健康状態において多様性が広がっていること、②教師の倫理感覚を疑うような報道があること、③養護教諭は特に子どもの健康情報や家庭情報を扱うことが多いことなどから、倫理に関する知識と感性を養うことが必要であると考えたからです。具体的には、会員校の倫理教育の実態を把握し、養護教諭養成に求められる倫理教育の在り方に関して検討を行い会員校の教員の能力教育に資する活動を目指しています。

◆委員会委員の募集◆

3委員会では活動に参加していただける委員を募集します。会の発展のためにも先生方の積極的なご参加をお願いいたします。ご参加いただける先生は8月10日までに下記の担当役員までメールでご連絡ください。

なお、大変申し訳ございませんが、各委員会の活動費が限られているため、会議等への交通費はご負担いただくことになることをご了解ください。

◇養成制度検討委員会 後藤ひとみ (愛知教育大学)

hgoto@aecc.aichi-edu.ac.jp

◇カリキュラム検討委員会 大原榮子 (名古屋学芸大学短期大学部)

ohara@nuas-jc.ac.jp

◇FD検討委員会 荒木田美香子 (国際医療福祉大学)

arakida@iuhw.ac.jp



中央教育審議会の動向

会長 岡田 加奈子 (千葉大学)

中央教育審議会教員の資質能力向上特別部会「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」

中央教育審議会教員の資質能力向上特別部会において、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」検討が行われてきましたが、2012年5月15日に、(審議のまとめ)が報告されました。本協議会にも意見照会がまいりました。それを受け、メールにて各大学の評議員を通じて意見募集を行い、役員会で検討の上、最終的な意見を6月1日に文部科学省へ提出いたしました。また、パブリックコメントも5月15日~6月5日にかけて行われました。それらの意見を踏まえて、6月25日に「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」(最終まとめ案)が出されました。

その中では、教育委員会と大学との連携・協働により、教職生活全体を通じた一体的な改革、学び続ける教員を支援する仕組みを構築する必要性が強調され、具体的な改革の方向性としては、教員養成を修士レベル化し、「一般免許状(仮称)」、「基礎免許状(仮称)」、「専門免許状(仮称)」の創設が言及されております。

これらの流れに対応する具体的な養護教諭養成と研修体制を、根拠となる成果を提示しながら構築することが本協議会の使命となります。つまり、委員会活動が非常に重要となります。会員大学が抱えている課題を共有しつつ、対応策を検討すると共に、養成教育、採用、研修の充実・向上のために、一層力を合わせていきたいと考えております。

養成大学の展望

大学紹介 北から南

聖徳大学短期大学部 山中 寿江

聖徳大学の歴史は古く、1933年に設立され来年は創立80周年を迎えます。本学は、千葉県の松戸駅から徒歩3分というアクセスのよい立地条件のもと、6学部12学科、新入生は毎年約1600名という総合女性大学です。聖徳太子の「和」の精神を建学の理念として、自立する女性をめざし、人間的に成長する「心の教育」に力を注いでいます。

その中で、養護教諭の養成は、学部・短大併せて3コースにわたって各学年で約130名~140名程度の学生が学んでいます。2004年には短期大学部総合文化学

科が設立され、翌年開設された「養護・保健ランチ」において、養護教諭二種免許状が取得できます。2005年には、人文学部社会福祉学科の設立と同時に通信教育部人文学部社会福祉学科も開設され、養護教諭一種免許状が取得可能となりました。

短大の方は、入学者は年々減少の傾向にあり、昨年度は10名、本年度は2名という現状です。一方、大学の方は通学・通信ともに多くの学生が入学・養護教諭免許状取得を希望しています。さらに、2012年度には心理・福祉学部社会福祉学科へと改組され、現在に至っています。通学の社会福祉学科は毎年約60名が、通信教育部は約70名が、一種免許状取得を目指して履修しています。しかし、採用状況は厳しく、本採・臨時採用も含めて養護教諭として就職するのは20名から30名というのが現状です。

このように、多くの学生が養護教諭を希望しているのですが、養護教諭の専門の教員は社会福祉学科に2名、総合文化学科に1名の3名（いずれも養護教諭経験者）、その中で通信教育部のレポートやスクーリング（集中講義）も合わせて担当するとともに、多くの教員の協力も得ながら何とか日々をこなしている状態です。

本学のカリキュラム構成上の特徴として、「健康科学」があります。これは社会福祉学科の学生を対象としています。健康相談や保健管理上、個別あるいは集団での保健教育を必要とすることが多い学校現場での現状を踏まえて、“現代的な健康課題について科学する”という観点から授業を展開しています。学生自身が「いのちと健康の大切さ」を学ぶと同時に、養護実習さらに養護教諭として職に就いてからも、保健教育に生かしていけるものとなるようシラバスを組んでいます。

本学の養護教諭の養成機関としての歴史は浅く、我々教員も模索している所ですが、一人でも多くの養護教諭誕生を願い、専門性と実践力を備えた学生の養成に力を注いでいきたいと思っています。

す建学の理念「去華就実」のもと、社会に有用な人材を世に送り出してきました。しかし、養護教諭養成の歴史はまだ浅く、今年で2年目を迎えたばかりです。

2011年4月、子どもの教育に必要な「教え導く教育」と「支えケアする教育」の2つの側面に専門性と実践力に優れた教育者を養成するため、初等教育学科と教育心理学科の2学科からなる教育学部が開設されました。この中の教育心理学科で「支えケアする教育の担い手の育成」をめざし、養護教諭一種免許状が取得できる養成がはじまりました。この他、中学校・高等学校教諭一種免許状教科（保健）、認定心理士も同時に取得することができます。定員60名ですが、1、2年生とも約50名の学生（この中には両学年とも男子学生が数名います）が養護教諭をめざし日々勉学に励んでいます。

昨年は教員も学生も共に学科づくりに暗中模索の1年でした。12名の学科教員がお互いの専門性を発揮しながら、学生の教育に当たり、無事2年目を迎えました。学生たちも1年次から、認知心理研究会、保健室ボランティア研究会、学校ボランティア研究会などのプレゼミ、学生主体の体験的学習や小学校・中学校でのボランティアに積極的に参加しています。

教員養成は高度な専門的知識と幅広い研究能力、さらに問題解決能力を備えた養成が望まれています。就実大学は養護教諭養成大学としてはスタートを切ったばかりです。まだまだ課題は山積されています。私自身は日々の教育・研究とともに、4年間を一サイクルとして、まずは1期生を現場に送り出してから改めて教育心理学科という強みを生かしての養護教諭養成について、カリキュラムをどのように再構築し、各科目間の連動性をどのように生かしていくべきなのか考えてみたいと思っています。その後さらに養護教諭養成の歴史を積み重ねていくことで、建学の理念に沿った社会に有用な多くの養護教諭を現場に送り出すことができると願っています。



建学の理念「去華就実」
就実大学 教育学部教育心理学科
郷木 義子

就実学園は岡山市内にありJR西川原・就実駅から徒歩1分という通学の利便の良い大学です。100年以上の歴史を有し、外見の華やかさに心奪われるのではなく、「内面の豊かさや知性、社会に貢献できる実践的な能力をまず身に着けること」という高い志を目指

東京学芸大学大学院教育学研究科養護教育
専攻における大学院教育について
東京学芸大学大学院 竹鼻 ゆかり

東京学芸大学では、2007年度の学部開設に先立ち、2005年度より大学院教育学研究科（修士課程）養護教育専攻 養護教育コース（昼夜開講）を開設しました。東京学芸大学大学院教育学研究科が掲げる「豊かな人間性と科学的精神に立脚した教育研究活動を通じて、



高度な知識と技能を修め、21世紀の知識基盤社会を担う有為の教育者を養成する」という目的を受け、本専攻ではアドミッションポリシーとして、以下の3点を掲げています。

- (1) 児童・生徒の多様な健康問題に対応できる専門的知識と実践力をもった教員を志す人
- (2) 保健学、健康教育学、養護教育学の進展に寄与する研究者を志す人
- (3) 健康に関する高い専門性を基盤とし、教育や保健医療福祉、地域社会のさまざまな分野においてヘルスプロモーションの中核となって活躍することを志す人

本専攻では、医学、看護学、養護教育学、保健学、健康教育学、健康心理学、健康社会学といった幅広い学問的基盤に立脚して、児童・生徒の健康、ひいては地域社会の健康を支援することができる人材を養成することを目的としています。すなわち、養護教育実践の根拠となる科学的エビデンスを生み出すための基礎的研究能力の育成、学校教育の場や学校を取り巻く地域コミュニティにおける広義のヘルスプロモーションでリーダーシップを取れる実践的な力量を形成するための専門教育を行っています。

今年度7年目を迎えた本専攻では、現職の養護教諭を中心とした学生を毎年数名迎えています。また一昨年には同窓会が発足し、年1回、総会と講演会、懇親会を開催するようになりました。この同窓会は、学問や研究を通じて交流する場となりつつあります。さらに修了生たちは、日本学校保健学会をはじめとした学会発表や学会誌への投稿等により、研究成果を社会に発信しています。今後、修了生たちの養護学への貢献が期待されます。

協議会活動報告

事務局 櫻田 淳 (埼玉県立大学)

第1回役員会は、2012年3月27日(火)10:00～11:40、東京田町キャンパスイノベーションセンターにて開催しました。出席者は、荒木田、池添、大原、岡田、後藤、斉藤、鈴木、津島、三木、櫻田(書記)です。初めに役員の自己紹介があり、続いて新会長、岡田先生より今年度より役員数が4名減となり効率的な運営に努力したいと挨拶がありました。議題は会務の新体制について協議しました。会務の運営では、加

盟大学の会員から応援して頂く体制を検討していくことになりました。常設の3つの委員会の担当者は、養成制度委員会は後藤、鈴木、斉藤。カリキュラム検討委員会は大原、三木、櫻田。FD委員会は荒木田、池添、津島になりました。養成制度委員会とカリキュラム委員会は、必要に応じて合同で会議を開催し協働して進めることになりました。

総会日程は、2012年9月7日(金)、東京田町キャンパスイノベーションセンターで開催することが決定しました。会場使用料は、今年度よりシステムが変更となり、テナントがある大学の割引がないために1日12万8千円となります。当日は、リエゾンは一部分だけ空いていますが、数か所の利用ができないために、ワークショップは、国際会議場を中心とした企画にして、弁当は用意しないことになりました。

その他、評議員の選出について規程の見直しが必要になっていること、現役員が任期中に退職や異動した場合の対応について意見交換をしました。基本調査は電子化による情報収集を検討していくことになりました。事業報告書はPDFに変換してホームページへ掲載することが決まりました。

日本養護教諭養成大学協議会 2012年度総会および養成教育フォーラム のご案内

日 時	2012年9月7日(金)	10:00～16:00
場 所	キャンパス・イノベーションセンター1F 国際会議場(東京都港区芝浦3-3-6)	
開 会	10:00	
1. 総会	10:00～11:00	
2. 養成教育フォーラム	11:00～14:30(予定)	
	講演「教員養成改革の動向(仮)」	
	文部科学省初等中等教育局 教職員課長 藤原 章夫	
3. 2011年度 調査並びに委員会報告	14:30～15:30	
閉 会	15:30	
委員会(教育課程検討委員会、FD 検討委員会、 養成制度検討委員)	15:30～16:00	

すでにお知らせしておりますように、昼食は、各自ご用意いただくことになっております。ご講演「教員養成改革の動向(仮)」に関連して、伺ってみたいことがありますら、「題名:協議会ご講演に関する質問」とし、メールにて8月10日までに、

okada@faculty.chiba-u.jp にお送りください。その際、中央教育審議会教員の資質向上特別部会の http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chuky011/index.htm の関連資料をお読みになったうえで、ご質問ください。また、時間等の関係上すべてのご質問にお答えすることは難しいかもしれませんが、その点は、あらかじめご了承ください。

会員校の皆様におかれましては、ご多用の折とは存じますが、万障お繰り合わせのうえ、ご参加いただけますようご案内申し上げます。

参加申込用紙・総会委任状は、今年度の加入登録書や基本調査と同時に送付しております。まだご提出いただけていない会員校は、8月1日（水）までに郵送またはFAXで事務局までお送りください。



事務局からのお知らせ

基本調査

今年度より事務局は埼玉県立大学へ移管しました。新たな事務局立ち上げの準備に手間って大変ご迷惑をおかけしましたこととお詫び申し上げます。7月2日現在で加盟大学は110大学です。新規加盟大学は、横浜創英大学、京都光華女子大学の2大学です。

まだ、養護教諭養成大学でも未入会の大学がありますので、事務局の方からも、再度、案内をいたしたいと思っております。ご存じの先生がおられましたら、是非とも本協議会をお勧めいただくとともに、事務局にもご一報下さいますようお願い致します。

事務局への問い合わせは、事務局専用のメールアドレスかFAXでお願いいたします。

電話の場合は留守電へ伝言していただければ、折り返しご連絡させていただきます。

よろしくお願い申し上げます。（事務局：櫻田淳）



ホームページ更新について

新役員体制のもと日本養護教諭協議会ホームページも新たな気持ちでスタートいたしました。本ホームページは、養護教諭養成に関する社会的動向や日本養護教諭養成大学協議会の取組の発信とともに、会員の皆様との双方向の対話、ネットワークの構築さらには養護教諭養成に関わる様々な関係機関や研究団体との相

互の連携を目指して、今後も取り組んでいきたいと思っております。そして会員の皆様のニーズを反映した内容の充実に努めていきたいと考えております。会員の皆様にはたくさんのご支援、ご協力をいただくことになるかと思いますが、今年度もどうぞよろしく願いいたします。

ホームページでは新会長のあいさつや新事務局の連絡先、組織体制など内容を更新しております。ぜひご覧ください。

日本養護教諭協議会 HP : 「<http://www.j-yogo.jp/>」

HP担当 :

三木とみ子 (女子栄養大学)

池添 志乃 (高知県立大学)

会計よりお願い

今年度から会計業務全般を荒木田美香子副会長と津島ひろ江理事が担当することになりました。各大学から納入されました貴重な会費をこれまで同様、大切に管理していきますので、ご協力の程よろしくお願い致します。現在80大学より会費の納入をいただいております。8月1日時点で会費が納入されていない場合は、総会での決議権がなくなりますので、できるだけ7月20日頃までに会費の納入をお願いいたします。

荒木田美香子 (国際医療福祉大学)

津島ひろ江 (川崎医療福祉大学)

☆☆ 編集後記 ☆☆

2012年度よりニューズレターの担当をさせていただくことになりました。ニューズレターvol18の発刊にあたり改めて養護教諭養成は今大きな変革を迎えていることを実感します。養護教諭養成大学として、皆様と一緒に、養成大学間のつながりを深められるような活動をしていけたらと思っています。ぜひ多くの会員の皆様の声をニューズレターでも届けたいと思います。これからもどうぞよろしく願いいたします。

池添 志乃 (高知県立大学)

斉藤ふくみ (茨城大学)

【事務局】 埼玉県立大学 櫻田 淳
Fax : 048-973-4374 (事務局専用)
Tel : 048-973-4326 (櫻田研究室)
E-mail : yogogimu@spu.ac.jp

事務局：埼玉県立大学保健医療福祉学部 櫻田 淳